

「Iwa アワー project (徳島文化芸術ホール (仮称) 整備事業)」

公募型プロポーザル二次審査会 審議・議事録

- 1 日 時 令和3年9月19日(日) 16:00~18:30
- 2 会 場 ホテル千秋閣 鶴の間(徳島市)
- 3 出席審査員 小泉 雅生、妹島 和世、津村 卓、中山 英之、松重 和美、眞野 純(五十音順)
- 4 議事次第 (1) 意見発表
(2) 討議
(3) 選定
(4) 最終決定
- 5 議事録
※冒頭、事務局から審議の流れや方法等について説明。

議事録

<意見発表>

○委員

- ・街に対してどのように開いているかということ、それから、これからの公共空間のあり方、それらに対する提案から考えると、D案が優れていると思った。
- ・B案も優れた公共建築の提案だと思うが、新しい徳島を世界に向けて発信する、ということからは少し弱いと思う。
- ・施工面については、どの案も実現可能性があると感じた。

○委員

- ・個性が違えば、どのチームでも素晴らしいホールができると思った。その中で、一番良いと思ったのがD。
- ・プレゼンテーションやヒアリングにおいて「チューニング」という説明が多用されていた点に注目した。底を伸ばすと日射が遮閉できるとか、スラブ間の段差を近づければ移動がしやすくなるとか。今後、みんなでチューニングしていける冗長性がある。
- ・同じ理由で、ホール全体の横っ腹をみんなが貫くという、非常に大胆な提案をしているBも、このプロポーザルの趣旨に沿ったチームだと思う。
- ・一方で、多くの作品において、巨大なインテリアを造り、その中にアクティビティを設定していた点が気になる。これだと今までのホールと空間的にあまり違いが出ないと思う。
- ・その点、他と少し違うと感じたのがA。大小の箱をからめ、その箱が楽屋であったり、一般的な機能を超えて冗長性をもって使える。大きな屋根の下にばらまかれている提案も良いと感じた。

○委員

- ・グループAのソーラーについては課題があると思う。
- ・外面的に注目を集めるという点で、Dの提案は新しいと思った。ただ、多様性とか多元性はあるが、そっぽを向かれるリスクもあると思っている。

- ・高い評価としたのはCで、徳島の特性に応じた回遊だとか、緑や水を活かすとか、そういったところでは良い案かと思う。

○委員

- ・BとAに、比較的高い評価を付けた。
- ・今回、二段階方式の審査とし、一段階目がアイデアを重視、二段階目が実現可能性を重視するという審査だったので、私としては、一段階目と二段階目に至る過程で、どのようにディベロップされたのか、あるいは、どのようなチームが組めたのか、実現可能性をどのように高められたのかというような観点で見た。
- ・その意味でいうと、Bは案を見直してかなり良くなったと思う。
- ・あと、ホールの四周をホワイエが囲んでいること、それを多面的に利用する提案が、これもホールの新しいあり方になっていると思うので、Bが高評価になっている。
- ・Aに関しては、太陽光パネルをあのように見せることにハレーションがあるけれど、建築物におけるエネルギー利用の新しいあり方を世界に向けて発信していく、という姿勢が示されている点で、それはそれで強いメッセージかと思ったので、評価は高くした。

○委員

- ・全体的にすごく良い提案をされている。評価として良かったのはBとEの2つの提案。
- ・Bの提案は、最初見たときには問題があると思ったが、ホワイエ周りにスペースが必要となる雨天時など、大ホール周辺も含めて余裕のある空間が持っているので対応できる。
- ・Bの提案における小ホールの問題点については、前向きな返事があり、きちんとやってくれると思った。
- ・Eの提案は、すごく安定したホールのつくりになっている。楽屋の取り方は直さないと無理と思うが、ホールの使い方とか、リハーサル室を舞台裏に持ってきて、バックステージを意識していることとか、この先、舞台の大きさが必要となる可能性があるのも、そのあたりでEとBで悩んだ。

○委員

- ・私は劇場としての機能を重点的に、将来的な運営面も含めて評価した。現状の設計でオープンしてすぐ使える劇場となっているか？あるいは作品を創作するリソースが多くある東京発のものが徳島新ホールで実現しうるか、という観点で全ての案を判断した。
- ・CとEの提案は、東京で創作した作品をそのまま徳島に持ってきて上演が可能な劇場である。また徳島から発信することも可能だろう。
- ・街に馴染むかということという点でいうと、Eがそのような提案であるが、この形で将来の変化に対応できるか、疑問。あまりに出来上がりすぎている。Cの方がこれからの検討の余地があると思う。

<討議>

○委員

- ・このプロポーザルでは、新たなホールのあり方の大胆な提案を求めたので、今までのホール建築の延長線上にあるようなち方ものではない案がいいと思う。
- ・ホールの配置の仕方のタイプがいくつか示されているが、C案、E案は圧迫感を軽減するかと思ったが意外に大きく現れ、この細長い敷地においては、側面の通路だけで街に開いていくのはなかなか難しそうに感じる。
- ・街にどのように開くかということと、ホールだけではなく敷地全体が新しいホールであり、公共の場所である、ということが重要であると思う。

○委員

- ・今回、東西方向を繋ぐ跨線橋ができるということが、一つ大きなポイントという気がする。
- ・Cの提案は、それをストレートにステージの背で表現をされているが、イベントがない場合の状況に懸念がある。両側に壁が立っていて、クールスポットとしているが、体育館の裏みたいな印象が先立ち、これでは東西方向を繋ぐことにならないと感じた。
- ・その点、AとBの提案では、割と素直に屋外空間を上手く繋いでいると思った。
- ・Eは、まちづくりという点からすると、繋がった先の東側の中央が、駐車場の入口ということが気になる。こういった課題があることから、CとEは厳しいかと思っている。

○委員

- ・従来のホールとは違う点に着目するとDの提案となる。それをリスクと捉えるか、アドバンテージと捉えるか。
- ・それ以外の提案は、やはりサイズが大きい。その中では、Bの提案は位置を変えて工夫をしている。

○委員

- ・真ん中に大階段を通したことで、大ホールと小ホールが切れてしまっているような印象である。

○委員

- ・AとBの提案は、仰々しくなく劇場の新しい形を提案していると思う。
- ・AもBも、劇場機能としていろいろ問題はあるが、調整可能な範囲であり、諸室もこれから改めて構想すれば良い形にできると思う。

○委員

- ・Dは、案の魅力とは別に、チームの脆弱さがある。

○委員

- ・Dの大ホールについて確認だが、バルコニー上の客席については、荷重の支持などの構造上の問題はないか。

○委員

・こういう方向でも構造的には大丈夫だと思う。

○委員

・バルコニー席は、今の段階でどれだけ構造的に計画できているか分からない。

○委員

・全体の魅力としてはDだと思っている。ただ、きちんとホール、劇場がつかれるのかというところ、お客さん、利用者、スタッフに対して、親切的な劇場がつかれるのかが気になる。

○委員

・これからの公共施設においては、使う側も責任を持って使うことが必要になるのではないか。つくる側と使う側の関係が大切。
・行政に施設をつくってもらおうという意識だけでなく、行政と住民が一緒につくり、使い続ける場所になると素晴らしいと思う。そうでないとできないと思う。

○委員

・それはとても分かる。私もそれをずっと理想にして、ワークショップなどもやってきた。

○委員

・BとEの提案は、大きな通路やホワイエを持ったホールなので、閉館時間になって明かりが落ち、空調が切られたら終わりのような気がする。一方、Dは、閉館していても大丈夫という場所があって、普通に日常風景になることが期待でき、また、エリアが分節されていることで、割とコンパクトな運営が可能になりそうな点が、とても新しいと思う。

○委員

・もう少し上手く、外は安全・安心の部分も含めて、セキュリティを高める工夫、ガードができるような形になれば面白い。

○委員

・次は、案を絞り込む議論をしてはどうか。

○委員

・CとEは、駅とつながった広場は生まれるが、その広場はその先あまりつながるものがない。

○委員

・寂しそうな風景が思い浮かんでしまう。良い場面というのはかなり限られていて、寂しい場面のほうが支配的になるのではないか、と思う。

○委員

- ・ E は、全体を空調していて、中に入れば快適かもしれないけど、結局全部内向きになる。

○委員

- ・ ホワイエが使われる可能性があまりないと思う。

○委員

- ・ C と E もソフトウェアの提案がホワイエにあまりない。回遊性をつくっても、そこにアクティビティが溢れるようなイメージを建築的につくることは難しい。

【討議終了。A、B、D を選定対象とすることについて合意】

<選定>

○委員

- ・ 街とのつながり、敷地、エリア全体が公共空間であることを意識した提案を選んだほうが良いと思う。その観点では、D が良いと考える。
- ・ A も良いと思う。箱から街に広がっていくところはいいと思うのだが、コンパクトそうに見えて、意外に床面積は大きい。
- ・ D は、きちんと進めていくことができれば、徳島からの世界への発信になる。

○委員

- ・ 今までのホールと違う徳島ならではのホールを考えてほしい、という要求水準に対して、斬新な提案として一番多かったのが、ホールの中と外を繋ぐ巨大な遮音シャッターを開け閉めすること、ホールと街を繋ぐ大きな通りをつくるというような提案だった。
- ・ らしさの表現として、大きな扉を開けて街と繋ぐのが、本当に新しいのか、なかなかしっくりこなかった。
- ・ D の提案は、全部のホワイエのキャラクターが違う内容で、こんなホールは見たことがない。例えば、子どもがホールに入れないときに、そういう子どもたちを専用のホワイエに集めてワークショップをやった後に、ホワイエから専用のバルコニーへ行くという誘導をするようなホールへの入れ方もすんなりできる、そんな空間の利用が可能となる。
- ・ このDだけは巨大な遮音シャッターを開放する大技を使っていない。今までにないホールとホワイエの関係を、建築全体のコンセプトとしてリアルな形で提案ができていて、というのはかなり新しい。ホール史に残る新しいコンセプトだと思う。

○委員

- ・ A の提案は、ソーラーが陳腐化したときに、この建物がらしさを維持できるのかということに疑問がある。

○委員

- ・私も同じ意見で、ソーラーというのは、見向きもされないような時が来る可能性はある。

○委員

- ・Dの提案では、内部でエレベーターを使用する際のスタッフ配置が気になる。現状で大ホールに行くルートはエレベーター1基と階段だが、ここのエレベーターを2基にするとか、計画変更の可能性はあり得るか。

○委員

- ・1基のエレベーターを効率性から2基にするなどの指摘はできると思う。

○委員

- ・いろいろな要望が出せると思うが、気になったのは、高齢者が楽しめるのかということ。それは、高齢者向けのコンテンツがあるというわけではなく、バリアフリーの面で。
- ・Dのアイデアは高く評価するが、今後の仕事に対しての十分な資質があるかとか、サポートチームのこと、劇場コンサルのことが気になった。実現可能性に疑問が残る。
- ・Bに関しては、外周部が全部ホワイエというホールはないので、もぎりラインが煩雑という課題はあるが、うまくオペレーションを見い出せば、今までにないホールが実現できる。
- ・Aの提案の新しさは屋根だが、パリのポンピドゥー・センターが市民の度肝を抜いたのと同じように高く評価されるのかどうか。そうなると、ちょっと厳しいと思う。

○委員

- ・Aの提案は、最初とあまり中身が変わっていない。

○委員

- ・ソーラーも捉え方によっては、新しいようでそうでもない。

○委員

- ・ヒアリングの際、ディテールというか、屋根の存在自体を聞かれても、経験があるから大丈夫との回答だったので、実現可能性に疑問が残る。

○委員

- ・BとDについては、確かにアイデアと魅力はあるが、施工について、短い時間でしっかりと動く組織になるかどうか気になる。

○委員

- ・Bの提案は、新しさはあると思うが商業施設的なイメージがある。

○委員

・そのあたりは、改善可能なチームだと思う。

○委員

・BよりAの方がホールとしての魅力があると思う。

○委員

・アーティスティックなセンスが大事だと思っており、Bについてはしびれる感じがなくて、そこは結構、最後の最後に作品の命綱と思うところがあった。

○委員

・Bは、取組意欲と問題解決に向けた姿勢に疑問があった。
・管理運営計画を作成するにあたって、ベースになる考え方が見えにくいと思う。他県で創作された公演のツアー先として受け入れが可能な劇場かどうか心配である。また自ら作品を創作して発信することが可能な場所とは見えず、新しさは感じない。

○委員

・Bの提案のブースのクオリティを上げるというのは全体が成立すればできると思う。Dに比べると、Bに対してクオリティを上げる注文を付ける方がいいのではないか、という気はしている。

○委員

・外観の雰囲気新しい公共建築というイメージから少し遠い気がする。

○委員

・Dの提案はデザイン的にはリスクも大きいと感じている。

○委員

・リスクの話をしてしまうと、可能性とのバランスをどう考えるかという話になってしまう。

○委員

・本当にリスクがあるといえるのか。

○委員

・実際のマーケット調査をしているわけではないが、若い人がどう使うとか、シニアがどう使うとか。若干、都会とは違うと思う。

○委員

・例えば、Dの提案は、小ホールของホイエの中に屋外部分につながる階段があるが、小ホールの利用時には屋外部分に出られないのか、雨水の対策はどうするのか、などの整理すべき事項はある。

○委員

・整理すべき事項があるとしても、デザイン的にはDだと思う。ただし、それらの事項が最後まで整理できなければ、使いにくいホールになる可能性がある。

○委員

・今日のスタンスで打てば響く感じなら安心できたが、自信をもって挙げられないと感じた。

○委員

・Dについては、初日のプレゼンテーションで委員から指摘された課題を踏まえて、二日目のヒアリングまでに短期間で軌道修正して、別の案を作ってくるという姿勢を評価する。実際の設計でも、どんどん対話しながらチューニングしていくという可能性を感じた。

○委員

・二次審査は実現可能性を問うフェーズという観点でずれがある。ただ、一次から二次の段階で大きく案を見直してきたのはBとD。
・一次審査に今回のアイデアを出してきて、それに対して我々が懸念事項とか出して、ちゃんと改修して変えてきてくれた人たちが、今回に適した信頼できる設計者なのかなと思う。

○委員

・この後、基本設計を通じてジャンプする可能性があるのはDだと思う。

○委員

・良い意味で劇場らしくない劇場、広場となる可能性があるのはDだと思う。

○委員

・審査する側として、責任を重く捉え、今日の質疑でも、技術的なこと、あるいは体制とか重点的に聞いてきたつもり。

○委員

・Bは、ホールの周りをホイエがぐるっと回っているわりには、あまり街に開いた感じがしない。それと、真ん中で建物が切れてしまっている点も残念である。

○委員

・私もそう思う。

○委員

・A はヒアリングでのコミュニケーションに少し難しさを感じた。

○委員

・太陽光パネルなどの質問について、すべて経験だけで説明していた点が難しかった。

○委員

・A は先端的であって陳腐化すると思う。

○委員

・D については、アイデアとか斬新性があるが、どこまで本当に会話ができ、施工や実際の子算も含めてできるかというところの議論が必要になる。

○委員

・D の施工者から説明を聞いても少し弱かった。予算の中に納まるということで見積書が出てきているので、それを信じることになるが。

○委員

・新しいホールのあり方というのは、ホールそのものや建物だけでなく、全体のあり方であると思う。

○委員

・ホール建築だと人を内に呼び込めるが、内だけじゃなく人を敷地内に呼び込むこと。今の議論だと、B か D になると思う。A は外したいと考える。

【B、D のいずれかを最優秀とすることについて合意】

<最終決定>

○委員

・課題はあるが、D がいいと思う。

○委員

・今すぐ設計をやらないといけないので、体制力が重要となる。

○委員

・日本で名建築が生まれたとき、新しいものが生まれるときの議論は、ある意味これと似ていたんじゃないかという気がする。徹底的に新しいものが出てきたときは、みんなが強い決意で取り組

まないといけないという意味で、Dは命がけで答えてくれると感じた。

○委員

・今回は、リスクをヘッジするための2段階方式による審査。お金のことも含めて担保をもって提案してもらおうという枠組みだったことを考えると、難しさが残ると思う。

○委員

・一方で、二次審査では、施工面での実現可能性を担保できる施工者とJVを組んで提案されており、今後もっとまとまっていくのではないかとと思う。

○委員

・その担保について、二次審査のヒアリングで施工者側からの説明が不足していた点に懸念がある。

○委員

・このプロジェクト名が「awaアワーproject」で、自分たち私たちが創っていくというのが、B、Dの両方ともそういった意味でも合っていると思う。
・あと安心感。Bはある面でオーソドックスだが、これだけの予算と県民の人がどう考えるという、Bの方でもまったく陳腐というわけではなくて、ある程度の斬新性がある。

○委員

・これからの新しいホールの提案を求めた今回のプロポーザルでは、D案の方が可能性があると思う。

○委員

・心が震えるのはDの提案。しかし、課題があることもよく分かる。

○委員

・Dの提案は、小ホールに劇場としての課題はあるが、使い方次第で良い場所になると思う。

○委員

・繰り返しになるが、Bの提案は、ホワイエがホール外周を取り囲んでおり、それを市民、県民と一緒に創っていくということ。エントランスがあって、ホワイエがあって、客席があって、舞台があって、それをぐるっと回すというかなり革新的なことを提案している。
・Dの魅力の100%認めた上で、それを実現するだけのチームなのかということに懸念を感じている。そういうことを提案者にもお伝えした上で認めるという方向か。

○委員

・Dの体制に関する懸念は理解できるが、同時に、街とのつながり、新しいホールの実現といった

観点では、相対的に D の方に期待できる。

- ・これから 4、5 年かけて設計・施工を進めるにあたって、D にはしっかりと実現させてほしい。

【D の提案を最優秀作品、B の提案を優秀作品とすることについて合意】